

霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

本日（31日）福岡火山監視・情報センター及び鹿児島地方气象台が海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの観測では、28日午前中の東京大学地震研究所による上空からの観測で確認された溶岩ドームが大きく成長しているのを観測しました。大きさは直径500m程度で、頂部は火口縁付近まで達していました。

新燃岳火口から概ね3kmの範囲では、噴火に伴う火砕流に警戒が必要です。新燃岳火口から概ね2kmの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石等に警戒が必要です。

○上空からの観測（図1）

本日（31日）、福岡火山監視・情報センター及び鹿児島地方气象台が海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て上空からの観測を実施しました。28日午前中の東京大学地震研究所による上空からの観測で確認された溶岩ドームが大きく成長しているのを観測しました。大きさは直径500m程度で、頂部は火口縁付近まで達していました。溶岩ドームの中央付近からは白色の噴煙が火口縁上約500mまで上がっていました。火口内南側から火口縁上約500mの白色噴煙が上がり、南東方向に流れており、火口内西側の火孔では、時折、ごく小規模な噴火（噴煙の高さ火口縁上約200m）が発生していました。また、赤外熱映像装置¹⁾による観測では溶岩ドームの中心に非常に高温の熱異常域を確認しました。

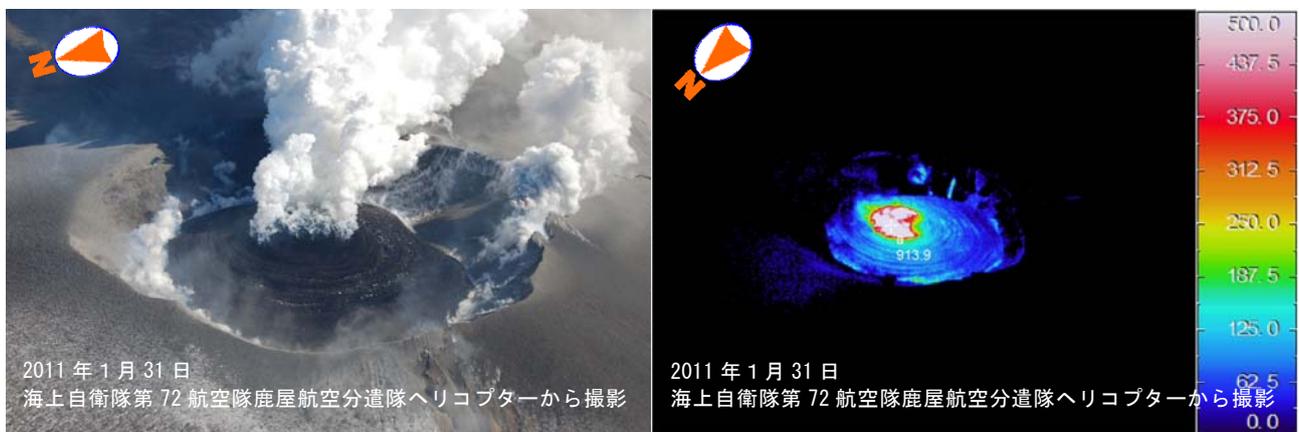


図1 霧島山（新燃岳）赤外熱映像装置¹⁾による火口付近の表面温度分布

- ・火口内の溶岩ドームは直径500m程度で、頂部は火口縁付近まで達していました。
- ・溶岩ドームの中心に非常に高温の熱異常域を確認しました。

1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

本日（31日）04時発表の火山活動解説資料の訂正をお知らせします。

1 ページ目：右上図の撮影日 2011.1.2 撮影⇒2010.1.2 撮影に訂正します。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。